

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス暖母 小笹		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 17日		令和8年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 17日		令和8年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが楽しく通所してくれている。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意思を尊重し、自己決定を推奨している。 ・外出レクで様々な体験や経験が出来る場を設けるよう工夫している。 ・保護者と送迎時や連絡帳で子どもの様子を随時報告し、保護者が困っている時は電話等で話しをし、密にコミュニケーションをとるようにしている。 	保護者と児童と職員が交流できる場を強化していく。
2	子どもの特性を十分理解し、保護者のニーズに沿った個別支援計画の作成を行っている。	毎月該当児童の保護者に事前モニタリングアンケートの配布を行い、モニタリングを行う前に保護者の現在のニーズ・を把握した上で職員間で共有、会議を行ったのちにモニタリングを実施している。	事前モニタリングアンケートを全体に配布していますが、未返却の保護者に対して必要性の周知を行っていく。
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境を設定し、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切である。	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的情報や聴覚的情報で左右される児童に対してクールダウンを行う事ができるようパーテーション等で個室を設ける ・身体不自由の児童に合った必要な用具を使用している。 ・視覚的な提示を室内に分かりやすく取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた環境で児童の成長に合わせた環境設定していく。 ・足りない用具があれば都度購入していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	広報の弱さ	<ul style="list-style-type: none"> ・おたよりやSNSの発信の弱さ ・知ってもらうよう、見てもらうようアピールの弱さ 	毎年保護者会や親子レク、小笹喫茶等保護者やきょうだい児の交流の場や地域との交流を行っているが、保護者の中でその結びつきが難しい。その為広報の仕方(文言や内容等)を工夫していく。
2	外部の研修参加	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の業務が忙しく、参加することが難しい。(参加できる時間の確保が難しい) ・会社からはお知らせはくるものの、個人的に必要な支援の向上に対して知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修については全体に共有し、各々に周知していく。 ・会社やセンターに随時研修について確認していく。
3	専門職の取り組み	専門職による個々へのアプローチは行っているが、その取り組み内容について保護者に十分に伝わっていない。	利用表に専門職のレク日時を事前記入し、配布。